

## 油菜ちゃんの夢「油菜の里」を実現しよう

福島原発事故から7年半が過ぎた。南相馬で取り組んできた「菜の花プロジェクト」も次第に地域に定着し、汚染地域における新たな農業の形として、地域の人々に受け入れていただけたようになった。ナタネ油が放射能で汚染しない事で「油菜ちゃん」が生まれ、商品化された。念願の搾油所も福島大学の協力で実現し、菜の花プロジェクトの目標である「バイオガス発電所」に向けて着実に歩んでいる。

「油菜ちゃん」には大きな夢がある。「油菜の里」を創ることだ。

### 菜の花プロジェクトは何故？

放射能で汚染された土地で農業をする、という一見無謀な取り組みは、チェルノブイリから始まった。世界で初めての原発の爆発事故とソ連崩壊という歴史的な事件が重なって、汚染地域(ウクライナのジトーミル州ナロジチ地区)に取り残された1万人の人々を支援する中で生まれた「菜の花プロジェクト」。

安全と信じていた原発の爆発、それは人々を別世界に追いやった。彼ら彼女らは自らを「チェルノブイリ人」と呼んだ。10歳の少女が画いた絵をもらい、衝撃を受けた。「事故前の私と事故後の私」。その自画像は左半分が美しいリボンをつけ、きれいなスカートをはいた私。しかし右半分は全身灰色に塗りつぶされた私、だ。「原発さえなければ」と言って自らの命を絶った福島の農家の方を思い出す。チェルノブイリでも福島でも、原発事故は心ある人々の世界観を変えた。菜の花プロジェクトには、そうした人々に寄り添い共に生きてゆく、という私たちの願いが込められている。一度失った命の火を再び燃やし、新たな世界を切り開いてゆく。それがこれからの生き方なのだ。政治家や産業界の面々が如何にもがこうと、原発の時代は終わったのだ。

今、行うべきは「原発事故からの復興」ではない、新たな世界を開く事だ。もとを正せば、チェルノブイリ事故を起こしたウクライナで、ナロジチで「原発に頼らないエネルギーの村」を作りたかった。バイオガスで電力を自給し、温室効果ガスを増やさない生活。汚染しない農作物を作り、新たな世界観を普及する為の研修所などを作る、それがナロジチでの夢だった。

### 「油菜ちゃんの夢」

今、政府はオリンピックを目指して、原発事故は無かったかのようにふるまい、再稼働を進めている。しかし彼らがいかにあがいても、廃炉や汚染水対策は避けられない。使命の終わった原発の後始末は、彼らの責任だ。そんな環境の中で生まれた「油菜ちゃん」はもう5歳。彼女には夢がある。生まれ育った南相馬に「油菜の里」を創ることだ。春になれば黄色い菜の花に囲まれ、ナタネ油を作る「搾油所」や、その「加工施設」「売店」「研修施設」「原発事故博物館」等を作り、その電力を全て自給できる「バイオガス発電所」を作る。その燃料は勿論、搾油後の汚染した油粕だ。バイオガス発電所の廃水に含まれる放射能は、ゼオライトで吸着し低レベル廃棄物処分する。発電所の温水は「ビニールハウス」の熱源に使い、安全な農作物を作る。こうして生きるためのエネルギーや資源、食料を自分で作れるライフサイクル、これが油菜ちゃんの夢見る「油菜の里」構想だ。勿論、油菜ちゃんはまだ5歳、周りの人々の助けも必要だ。でも油菜ちゃんの夢は、この国の未来に通じる大きな夢だ。世界には今、大きな波が押し寄せている。SDGs (Sustainable Development Goals) という新しい文明の波だ。持続可能な社会こそが未来の世界を作る、と人々は感じ始めているのだ。目先の利害に惑わされず、新しい未来の社会に向かって、新たな事業を起こそうという考えが普及し始めたのだ。原発はもう過去の産業だと、心ある世界の人々は分かったのだ。「油菜ちゃん」が更に大きく成長するように、応援をお願いします。(2018年9月27日 河田)